

令和8年度 若者未来デザイン会議 結果報告会

知事に提案！
私たちが変えてみせます、岐阜県の農業



from 県立岐阜総合学園高等学校

若者未来デザイン会議 施策への反映結果報告会

県立岐阜総合学園高校×県農政部



知事に提案！
私たちが変えてみせます、岐阜県の農業

提案について（振り返り）

	提案内容
① 農業×教育	小学生が取り組める、楽しさ（対決要素等）を取り入れた農業体験 ○将来の担い手の卵を育てるため、農業に関わる機会が少ない小学生のイメージを変える。 ○そのために、小学生が農業に触れ、楽しさを知ってもらう農業体験を提案 ○小学6年生を対象に、1年間を通じて取り組めるようなスケジュール 農産物の栽培→収穫・調理（レシピ考案）→イベント本番（調理実習とレシピ対決 ※優勝レシピは給食で提供）→お世話になった地域の方などに、レシピ発表、野菜プレゼント
② 農業×移住	地域ぐるみの組織（組合）による農業体験プログラムづくり ○中山間地域の担い手不足を解消するためには、若手の働き手を確保することが重要 ○農業を始めるには、収入や農地の確保、農業機械の導入などの不安があることに加え、移住するとなれば、土地や家など多くの不安が山積 ○そのため、地域ぐるみで農業体験できる組織をつくり、体験を入口として、当該地域への定着をサポートする仕組みづくりができないか。
③ 農業×観光	インバウンド向け農業体験を通じたトマトの美味しさの発信 ○県内の観光は、高山市など一定の地域に観光客が集中していたり、受入れ側が英語が話せないといった言語の壁などの課題がある。 ○他方、県内にはトマトなど、インバウンドに対して十分にPRできていない。出荷基準には合わないものの味のある熟したトマトを売りにできないか。 ○インバウンド観光客向けにトマトの収穫体験やトマト料理を提供する体験プログラムを造成することで、農業と観光の両面の活性化につなげられる。
④ 農業×企業連携	既存企業と地域農業の連携（地域密着型農業企業の設立※20～30年先） ○人材不足は他産業も同様、農業だけに税金等を投入するのはどうか。 ○将来的には、地域密着型農業企業の設立が望ましいが、すぐに実行することは難しいため、まずは、既存企業と連携した体制づくりを進めてはどうか。 （例）農業×コンビニ、農業×飲食店、農業×スーパー、農業×お祭り…など
⑤ 農業×福祉	栽培キットの配布による気軽な農業体験の促進 ○これまでは地域の農家が協力し合って農業や農地を守り、地域の活性化に貢献。しかし、高齢化によって農業をやめる方が増加。 ○いきなり農家になってもらうのは難しい。まずは、栽培キットの配布による気軽な農業体験の機会を提供を通じ、地域の住民と農家との交流、地域への愛着づくりなどにつなげてはどうか。

皆さんからいただいた意見をもとに、計画を策定しています

ぎふ農業活性化基本計画（案）

～「楽しい農業・儲かる農業の実現」に向けて～

（令和8～12年度）

岐阜県

第2章 計画策定の背景に、岐阜総合学園高校の皆さんとの意見交換やアイデアを記載

（2）若者未来デザイン会議

未来を担う子どもや若者が、県政や社会課題などについて知事と意見交換する場として、令和7年度から新たに若者未来デザイン会議を開催しています。

県立岐阜総合学園高等学校の高校生が、事前に行った学習や農業体験を踏まえ、「知事に提案！私たちが変えてみせます、岐阜県の農業」をテーマに「農業×教育」、「農業×移住」、「農業×観光」、「農業×企業連携」、「農業×福祉」、の5グループに分かれて知事に提案し、意見交換を行いました。

	高校生からのアイデア
農業×教育	担い手の卵を育てるため、農業に関わる機会が少ない小学生が、楽しく取り組めるような、対決要素をいれた農業体験を提案。
農業×移住	地域ぐるみの組織(組合)による、農業体験プログラム農業により、若者が移住し、田舎で農業を始めるハードルを下げる。
農業×観光	県内の一部地域に集中している海外観光客を農村へも誘致し、県産農産物を世界に広めるため、農業と観光地を組み合わせた体験ツアーを提案
農業×企業連携	農業機械の共同利用等を行う地域密着型農業企業の設立や、既存企業と地域農業の連携による商品開発やイベントでのPR、地産地消の推進を行う事で、農業者の収益確保と、人材不足解消を目指す。
農業×福祉	若者に農業へ興味をもってもらい、農業の手伝い等の農業に携わるきっかけづくりにつなげるため、栽培キットの配布による気軽な農業参加を提案。



農福連携や農村地域の応援隊等の取組強化

計画20~21ページ

<農福連携や農村地域の応援隊等の取組強化>

○ 多様な主体による農業への関与を促進するため、都市住民等による農村保全のボランティア活動と、CSR活動や農業参入などを希望する企業と農村地域とのマッチングを一体的に推進することにより、「ぎふの田舎応援隊」の取組を強化します。



ゆず収穫ボランティア(関市)

○ 農業や農村への関わりを希望する都市住民や移住者等が、多様なライフスタイルのもとで農業に参画できるよう支援を充実させるとともに、「半農半X」の実践について移住部局等と連携し、きめ細かなサポートを行います。

○ 次世代の担い手づくりを支援するため、子どもたちが授業などで農業を気軽に体験し、その楽しさや大切さを学ぶ環境づくりを行うなど、「田んぼの学校」の取組を強化します。

田んぼの学校とは・・・

県内の小学校を中心に、農業によって支えられている様々な機能について学習し、子どもたちに農業・農村の大切さを理解してもらう取組



①農業×教育、⑤農業×福祉 の提案

小学生が取り組める、楽しさ(対決要素等)を取り入れた農業体験

- 将来の担い手の卵を育てるため、農業に関わる機会が少ない小学生のイメージを変える。
- そのために、小学生が農業に触れ、楽しさを知ってもらう農業体験を提案
- 小学6年生を対象に、1年間を通じて、取り組めるようなスケジュール

栽培キットの配布による気軽な農業体験の促進

- これまでは地域の農家が協力し合って農業や農地を守り、地域の活性化に貢献。しかし高齢化によって農業をやめる方が増加
- いきなり農家になってもらうのは難しい。まずは、栽培キットの配布による気軽な農業体験の機会を提供を通じ、地域の住民と農家との交流、地域への愛着づくりなどにつなげてはどうか。



令和8年度から、田んぼの学校で栽培キットの配布を実施します。

また、食農体験に加えて、郷土食の料理体験を実施。地域の野菜等を給食で使ってもらえるように学校給食地産地消コーディネーターを派遣



アグリパーク構想の実行

計画 19 ページ

<アグリパーク構想の実行>

- 本県農業が直面する課題に対応した、特色のあるスタートアップの「場」が設けられ、県内外の若者や定年後を見据え新しい挑戦をする世代など、多様な主体の参入に向けた創意工夫あふれる「取組」が展開されるよう、公募形式による重点推進モデルの構築に向けた支援を行います。

(重点推進モデルのテーマ：想定)

- ・ 中山間地域に適した農業参入モデル（地域の課題解決にもつながるもの）
- ・ 直売所等を中心とした地域活性化モデル（地消地産的な取組など）
- ・ 農業版働いてもらい方改革モデル（副業希望者の多様なニーズに応えるだけでなく、農業法人や集落営農、産地などの課題解決にも資するもの）
- 兼業・副業など多様なスタイルでの農業参画を推進するため、県民（非農家）、民間企業（従業員）、地方自治体・関係団体（職員）の農業分野での兼業・副業を推進します。
- 少量多品目栽培など、様々な就農ニーズや消費者ニーズに応じた技術支援が行えるよう、技術サポート拠点を整備するとともに、その拠点を生かした生産・販売両面のオーダーメイド型の支援体制を構築します。
- 多様な主体を含めた新たに農業参入を志す人材を対象に、農業大学校等で農業機械の基本操作や農作業安全の研修を実施します。
- 多様な主体の農業参入を促進するため、農地中間管理機構や農業委員会と連携した円滑な農地利用の推進や、農業機器の共同利用体制の構築など、参入障壁の引き下げにつながる支援スキームを市町村や関係機関等と連携して整備します。

②農業×移住 の提案

地域ぐるみの組織（組合）による農業体験プログラムづくり

- 中山間地域の担い手不足解消のためには、若手の働き手を確保することが重要
- 農業を始めるには、収入や農地の確保、農業機械の導入などの不安があることに加え、移住するとなれば土地や家など多くの不安が山積
- そのため、地域ぐるみで農業体験できる組織をつくり、体験を入口として当該地域への定着をサポートする仕組みづくりができないか。

中山間地域において、
農業体験を入口として、地
域への定着をサポートする
団体を政策オリンピックの
形で公募

(中山間に適した農業参入モデル)

政策オリンピックで採択された団体について、モデルとして他の地域へも横展開の予定

そのほか、農業機械のシェアや農地確保に向けたあっせんの仕組みづくりについても、来年度事業で実施予定



岐阜県政策オリンピック

アグリパーク重点推進モデル アイデア募集

アグリパーク構想とは……

農村地域内の非農家や都市住民など多様な主体が、気軽に農業を体験し、楽しみながらノウハウを学ぶことができるスタートアップの「場」を設け、その延長線上で、多様な主体・形の農業参画を促進する構想です。

「アグリパーク構想」の実現に向け、意欲ある主体による、地域の実状や課題、農業にチャレンジしたい方のニーズなどに即したアイデアを募集し、優れたアイデアを実践する団体へ事業費を助成します！

新たな海外輸出戦略の展開

計画48ページ

＜新たな海外輸出戦略の展開＞

- 県産農畜水産物やそれらを主原料とする加工品について差別化し、海外で販路の開拓や流通ルートの構築を担う地域商社の育成に取り組みます。また、地域商社と連携し、食品見本市への出展や商談会の開催、フォローアップを通じて、生産者等の輸出拡大を後押しします。
- 「ぎふの食」を目的に来県する訪日観光客の増加に向け、魅力的な食関連コンテンツの育成と効果的な情報発信を推進します。また、旅行客が滞在中に観光農園や飲食店などで県産食材の品質や背景に触れることで購買意欲を高め、帰国後も継続的に購入できる仕組みを構築し、インバウンドを契機とした輸出拡大に取り組みます。
- 海外において既に認知度の高い飛騨牛は、フルセット販売による取扱店舗の増加に取り組みます。併せて、岐阜鮎海外推奨店をはじめ、海外での情報発信拠点の拡大を進め、これらの店舗に多種多様な県産食材を提案し、取扱量の拡大を促進します。また、他県等と共同プロモーションを実施し、効果的かつ効果的に情報発信します。



インフルエンサーへ鮎のPR (タイ)



飛騨牛海外推奨店での県産食材提案 (フランス)

- ・ 「ぎふの食」を求めて岐阜を訪れる旅行客の増加に向け、魅力的なメニュー提供や、食体験づくりを推進し、旅行代理店等にPR 岐阜の食の魅力を体感してもらう。
- ・ さらに帰国後にも県産食材を購入できる仕組み（輸出等）を構築

③農業×観光 の提案

インバウンド向け農業体験を通じたトマトの美味しさの発信

- 県内の観光には、高山市など一定の地域に観光客が集中していたり、受入れ側が英語が話せないといった言語の壁などの課題がある。
- 他方、県内にはトマトなどインバウンドに対して十分にPRできていない。出荷基準には合わないものの、味のある熟したトマトを売りにできないか。
- インバウンド観光客向けに、トマトの収穫体験やトマト料理を提供する体験プログラムを造成することで、農業と観光の両面の活性化につなげられる。



インバウンド向けの、県産食材を使ったメニューや体験プログラムの開発を支援

魅力発信

旅行代理店、飲食店等への提案、招へい

需要アップ！
& 拡大！

来岐を誘導

需要アップ！
輸出された農産物を購入

帰国後に購入する
旅行客の受け入れ
仕組みづくり

農福連携や農村地域の応援隊等の取組強化

計画20～21ページ

<農福連携や農村地域の応援隊等の取組強化>

- 多様な主体による農業への関与を促進するため、都市住民等による農村保全のボランティア活動と、CSR活動や農業参入などを希望する企業と農村地域とのマッチングを一体的に推進することにより、「ぎふの田舎応援隊」の取組を強化します。
- 農業や農村への関わりを希望する都市住民や移住者等が、多様なライフスタイルのもとで農業に参画できるように支援を充実させるとともに、「半農半X」の実践について移住部局等と連携し、きめ細かなサポートを行います。
- 次世代の担い手づくりを支援するため、こどもたちが授業などで農業を気軽に体験し、その楽しさや大切さを学べる環境づくりを行うなど、「田んぼの学校」の取組を強化します。



ゆず収穫ボランティア(関市)

ぎふの田舎応援隊とは・・・

県内の美しい農村地域を守るため、都市住民が地元の人々と協力し、稲刈りや草取り、水路清掃などのボランティア活動に参加してもらう制度

隊員は個人または
団体(会社・大学・グループ
・友人・家族など)



④農業×企業連携 の提案

既存企業と地域農業の連携

- 人材不足は他産業も同様、農業だけに税金等を投入するのはどうか。
- 将来的には、地域密着型農業企業の設立が望ましいが、すぐに実行することは難しいため、まずは、既存企業と連携した体制づくりを進めてはどうか。

「企業版ぎふの田舎応援隊制度」を新設!

企業

《ニーズ》

- ・ 環境保全活動に取り組みたい
- ・ 地域貢献したい
- ・ 社員研修の場を充実したい



《効果》

- ・ 農作業等の人手不足が解消!
- ・ 交流人口が増え農村地域が活性化!

さらに・・・

- ・ 商品開発や地域資源を活用した観光など、ビジネスの開発
- ・ 企業の農業参入 が期待!

農村地域

